

# 11月のアルミレポートおよび12月の見通し

橋本アルミ（株） 橋本健一郎氏



## 予測レンジ

LME 現物後場買い	1400—1550ドル
スクラップ	—5から—10円（前月最終価格より）
為替	119—122円（一か月間）

↑ 弱い  
↑ 弱い  
♣ 変わらず

## ■概況

前半は、米週間新規失業保険申請件数が前週比変わらずの27.6万件を受けての米 12月利上げ観測や中国の10月融資総量が急減したことが改めて中国経済の落ち込みを浮き彫りにするなどのマイナス材料もあったが、米アルコアが米国内のいくつかのアルミ精錬所を一時停止し、50万トンの減産を行うと発表したこと、10月の中国自動車販売は前年比11.8%増の220万台で昨年12月以来の伸びだったこと、1~10月の中国の固定資産投資は前年比10.2%増だったことを好感しUP。10月14日時点1482ドル（現物後場買い）と月初価格から29ドルUPの前半締めとなった。

後半は、トルコ軍のロシア機墜による原油の上昇、11月の米ISM製造業景況指数は48.6に低下、予想の50.5を下回る事による米利上げ懸念の後退などのプラス材料もあったが、上海株の急落、中国の工業利益が前年比4.6%減少し、前月の0.1%減少から悪化したこと。ロシアのプーチン大統領がトルコ大統領との接触を拒否するなど地政学的緊張の高まったことからDOWN。

12月1日現在 LME（現物後場）1439ドルと後半スタート価格から14ドルDOWNしてのスタートとなつた。

## ■前月の経済指標

◆月間のドル/円レート (TT\$) 121.72 → 124.07 (円)

## ◆自動車生産台数

日本自動車工業会によると自動車生産台数は前年比—0.5%の81万7080台であった。

## ◆自動車販売台数

日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数（軽除く）は前年比+0.3%の23万9815台。

## ◆新設住宅着工戸数

国土交通省統計によると新設住宅着工戸数は前年比—2.5%の7万7153戸であった。

## ◆貿易指標

### 輸出

財務省貿易統計によれば輸出はアルミ新地金が前年比—90%の48t、2次合金が—13.3%の1556t、前月比でスクラップが—17.9%の10765t アルミ缶が+15.1%の3800t。

15年1月から スクラップが スクラップとアルミ缶に 仕分けされたため前年比との比較ができず 前月比にしております。

### 輸入

輸入は新地金が前年比—26.9%の9万9710t、2次合金が—4.4%の9万7010t、スクラップが—38.1%の797t、合金スクラップは—3.5%の4268t。

## ■前月の国内指標

日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前年比—2.5%の17万7473t。

日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金同合金地金等生産実績は前年比—4.8%の6万9770tであった。

## ■概況

### 【自動車生産】

10月の四輪車生産台数は813,110台で、前年同月の817,080台に比べて3,970台・0.5%の減少となり、16ヵ月連續で前年同月を下回った。

10月の車種別生産台数と前年同月比は次のとおり。  
乗用車—689,929台で5,951台・0.9%の増加となり、16ヵ月ぶりにプラス。このうち普通車は432,274台で34,719台・8.7%の増加、小型四輪車は135,603台で4,801台・3.4%の減少、軽四輪車は122,052台で23,967台・16.4%の減少。

トラック—111,492台で8,380台・7.0%の減少となり、6ヵ月連續のマイナス。このうち普通車は49,152台で6,874台・12.3%の減少、小型四輪車は27,942台で177台・0.6%の増加。軽四輪車は34,398台で1,683台・4.7%の減少。

バス—11,689台で1,541台・11.6%の減少となり、4ヵ月連續のマイナス。このうち大型は872台で139台・13.7%の減少、小型は10,817台で1,402台・11.5%の減少。

10月の国内需要は380,089台で、前年同月比4.1%の減少であった。（うち乗用車315,192台で前年同月比4.0%の減少、トラック63,875台で同5.0%の減少、バス1,022台で同8.3%の増加。）

輸出は前年同月比3.8%の増加。（実績）

### 【自動車販売】

11月の国内自動車販売台数（軽は除く）は 23万9815台で前年比+0.3%。2ヵ月連續プラス

内 乗用車	—0.4%
貨物	+3.9%
バス	+20.4%

### 【住宅着工数】

- 平成27年10月の住宅着工戸数は77,153戸で、前年同月比で2.5%減となった。また、季節調整済年率換算値では86.2万戸（前年比4.3%減）となった。

- 利用関係別にみると、実数値では、前年同月比で持家で増、貸家、分譲住宅で減となった。季節調整値については、前年比で分譲住宅で増、持家、貸家で減となった。

## (つづき)

## (持家)

前年同月比では6か月連続の増加（前年同月比2.4%増、季節調整値の前月比では2.9%減）。

## (貸家)

前年同月比では6か月ぶりの減少（前年同月比2.6%減、季節調整値の前月比では12.4%減）。

## (分譲住宅)

前年同月比では2か月連続の減少（前年同月比9.5%減、季節調整値の

前月比では3.9%増）。

## (分譲マンション)

前年同月比では2か月連続の減少（前年同月比17.2%減）。

## (分譲一戸建住宅)

前年同月比では3か月ぶりの減少（前年同月比1.1%減）。

## 【アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績】

前年比-4.8%の6万9770t。13カ月連続マイナス。

出荷は-5.8%の6万9623t 20カ月連続マイナス。

## 内 出荷先

鋳物 -11.1% ダイカスト -4.5% 板 -1.4%

押出 +11.2% 鉄鋼-12.4% 合金地金メーカー +7.5%

【アルミ圧延・押出品生産数】-2.5% 8カ月連続マイナス 17万7473t

## 板類

(1) 缶材 34,696t (▲ 1.5%) :

一部コーヒー缶のアルミニ化による需要増はあったが、ボトル缶の在庫調整があり、7ヶ月ぶりにマイナス。

(2) 自動車 13,830t (6.4%)

軽自動車を除く国内乗用車生産台数は増加しており（9月の軽を除く乗用車生産台数：584万台、前年同月比：+1.8%）、また、トラック架台の需要増により、2ヶ月連続でプラス。

(3) 輸出 18,920t (▲ 11.9%)

海外関連工場への素条輸出の減少により、2ヶ月連続でマイナス。

## 押出類

(1) 建設: 42,940t (▲ 6.1%)

9月の新設住宅着工戸数はプラスとなったが（9月の着工戸数：77,872戸、前年同月比：+2.6%）、建設全体としては16ヶ月連続でマイナス。

## 【輸出】

アルミ新地金が前年比-90%の48t。

二次合金が-13.3%の1556t

スクラップが-17.9%の1万765t

アルミ缶が前月比+15.1%の3800t

## 【輸入】

アルミ新地金が前年比-26.9%の9万9710t

二次合金が-4.4%の9万7010t

スクラップが-38.1%の797t

合金スクラップが-35%の4268t

## 【見通し】

・自動車は生産が前月に続き減少の-0.5%。11月の国内販売台数が前年比+0.3%。

生産が16カ月連続マイナス、販売が2カ月連続プラス。

生産が1年間以上前年割れとなつたが減少幅は縮小。

販売の方が微増ではあるが2カ月連続プラスに。

今後販売のプラスが続くか注視が必要。

・住宅着工の動向については、前年同月比で8か月ぶりの減少となった。分譲マンションについて前年同月に大規模物件の着工が多くあつたことが要因である。貸家の着工については6か月ぶりの減少となつたが、依然3万戸を超える水準で推移しており、堅調を維持している。

一方、昨年4月の消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動の影響が大きかった持家は前年同月比で6か月連続の増加となるなど、全体として持ち直しの傾向が続いている。

・引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

・アルミ圧延・押出品生産数 主力の押出 建設部門の悪化を受けて減少。唯一期待の輸出がついにマイナス。ただ自動車は国内販売台数の増加を受けて小幅上昇。今後の動向に注視。

・アルミニウム2次合金 同合金地金等生産実績 自動車系の悪化を受けて減少。

ただ自動車販売の方が2カ月連続プラスとなっており今後の回復に期待。

・輸出 国内玉の発生難を受けて減少。

・輸入 内需の低迷や円安から減少。

## 【スクラップ需給予想】

流通在庫は、パリ同時テロやトルコ軍のロシア機撃墜などの地政学リスクを受けての価格の急落から塩漬け状態。

伸銅品生産の低調。伴う発生薄のトレンドは変わらが上記理由による玉不足から需給は引き締まつてゐるのではないか。

## 【価格・為替予想】

今月は、ECBの金融緩和時期と米国の利上げ問題に左右される。

ECBの金融緩和に関してはドラギ総裁が前回10月の会合後、「12月の理事会で金融緩和策の度合いを見直す必要がある」と表明。その後も積極発言を繰り返し、ECBが追加緩和に踏み切るのはほぼ確実な情勢ではないか？

米利上げ時期に関しては、先日の議会証言でFRBイエレン議長が12月の利上げの可能性はあるとコメントした事もあり今後の動向に注目。

それらを踏まえた12月のアルミ価格は、ECBが追加的金融緩和を行い、米国が今月の利上げを行わなかつた場合、11月高値の一段下1550ドルを予測。いずれかの場合には1450ドル。

下値はいずれの条件も達成できなかつた場合11月もう一段安値の1400ドル。

為替は、米FRBの利上げについて新たに12月説が台頭している。

ECBは追加金融緩和は前向きなことを考えれば利上げの可能性がある。

それらを踏まえ予測は

上値はアメリカが12月の利上げを示唆し、ECBが追加禁輸緩和をした場合新興国からの資金吸い上げそれに伴うドユーロ安ドル高の加速判断から大幅円高の119円台を予測。下値は利上げを行わなかつた場合ほぼ現状と変化なしとの判断から122円台。

メーカー スクラップ購入価格は-5から-10円と予測している。